

「海園都市めざす」

50の公約に手応え



インタビューに応じる
大西市長＝高松市役所

高松市の大西秀人市長は2日で市長就任2年を迎えるのを前に、朝日新聞の単独インタビューに応じた。新型の豚インフルエンザの対応について、大型連休中も保健所が電話相談に応じるなど「早めの判断、対策」を取る考えを示した。高松の将来像については「島々を含めた海の園『海園』や田園を生かす」と語り、自然を観光振興につなげていく考えを強調した。

(聞き手・上地兼太郎)

就任2年 大西高松市長に聞く

新型インフル 早めの判断・対策

—新型インフルエンザへの対応は整っていますか？

高松市は全庁の幹部級でつくる対策幹事会を立ち上げた。大型連休中も保健所が電話相談に応じる。状況の推移を見極めつつ、早めの判断、対策を講じていきたい。

—就任から2年。手応えはいかがですか？

毎日毎日、突っ走ってきた。市長選の時に打ち出したマニフェスト50項目は1年目でほとんど着手の見通しがたった。2年目はさらなる手応

えを感じた。相当なことをやれたと思う。

—市街地の活性化についてどう考えますか？

マニフェストの1番目に「中心市街地を活性化し『商都・高松』を復活させよう」と掲げた。1年目の夏に丸亀町A街区の三町ドームができ、B街区、C街区も工事が進んだ。丸亀町商店街は活性化の成功例として全国の注目を浴びている。

高松琴平電気鉄道（ことでんのIC乗車券「Iruca（イルカ）」を香川大学の学生証や職員証に導入してもらうなど、行政、大学、公共交通、商店街が一体の街づくりが進んでいるのが特徴だ。

—「高速道路1千円」を利用して訪れてもらうにはどうしますか？

企業などにどんどんアイデ

アを出してもらおう。10年後、20年後を見ればリピーターを増やすことが大切だ。栗林公園や屋島といった従来型の観光地に加え、イサム・ノグチ庭園美術館、ジョージナカシマ記念館など新しい場所もある。来年3月には高松国際ピアノコンクール、7月には瀬戸内国際芸術祭がある。

—高松は創造性豊かな海園、田園、人間都市を目指す」ということを私はよく言っている。香川は「日本一狭い県」と言われるが、瀬戸内海の面積も含めたら大きい。島々を含めた海の園、「海園」だ。海や山の自然を生かした都市というイメージを売り出し、観光振興につなげていく。

残り2年、マニフェストを仕上げ、世界経済など変化する様々な状況に対応しながら進めていく。

■07年市長選での大西市長のマニフェスト（一部）

- ・中心市街地ににぎわいを取り戻す活性化の取り組みを進める
- ・地域資源を生かした特色のある産業を振興し、農業、水産業の振興などを含めた高松ブランドを打ち立てる
- ・塩江温泉郷の振興、屋島観光の再生等に取り組む
- ・高齢者や障害者が安心して暮らせるよう福祉政策を充実する
- ・保健医療施策の充実を図り、市民病院のあり方の検討を踏まえ、その移転改築に取り組む
- ・歩行者と自転車に優しい「散歩が似合う街づくり」を進める
- ・関係者が一堂に会する「高松市水環境会議」を設置し、水をめぐる施策の連携を図る
- ・市美術館、イサム・ノグチ庭園美術館などを組み込んだアート・ツーリズムを進める
- ・団塊世代の定住、活躍の場づくりを進める
- ・県内市町に呼びかけ、道州制時代を展望した基礎自治体のあり方の研究を行う